

資料 1

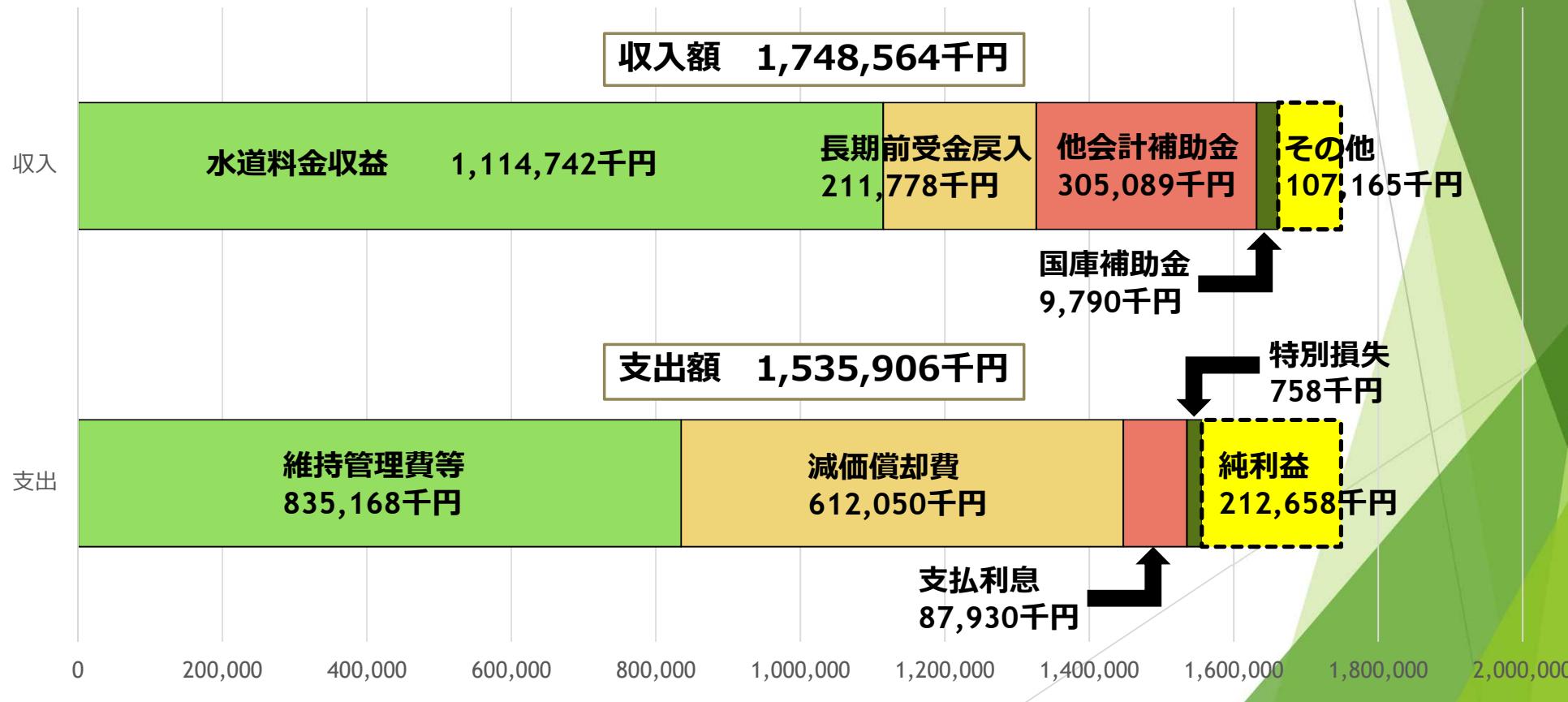
令和 4 年度 行田市水道事業会計 決算について

事業概要

事 項	単 位	令和4年度	令和3年度	前年 度と の比 較	
				増 ・ 減	比 率 (%)
年度末給水人口	人	76,004	76,279	△ 275	△ 0.36
給水区域内人口	人	78,550	79,021	△ 471	△ 0.60
普及率	%	96.76	96.53	0.23	-
年度末給水戸数	戸	35,275	34,887	388	1.11
配水量	年間	m ³	9,626,300	9,845,199	△ 218,899
	一日平均	m ³	26,373	26,973	△ 600
有収水量	年間	m ³	8,455,377	8,757,247	△ 301,870
	一日平均	m ³	23,165	23,992	△ 827
一日最大配水量	m ³	29,565	28,935	630	2.18
有収率	%	87.84	88.95	△ 1.11	-

収益的収支【3条：営業活動の結果】

水道水を供給して得た収益と
水道水を作つて、各家庭に水を配るための経費

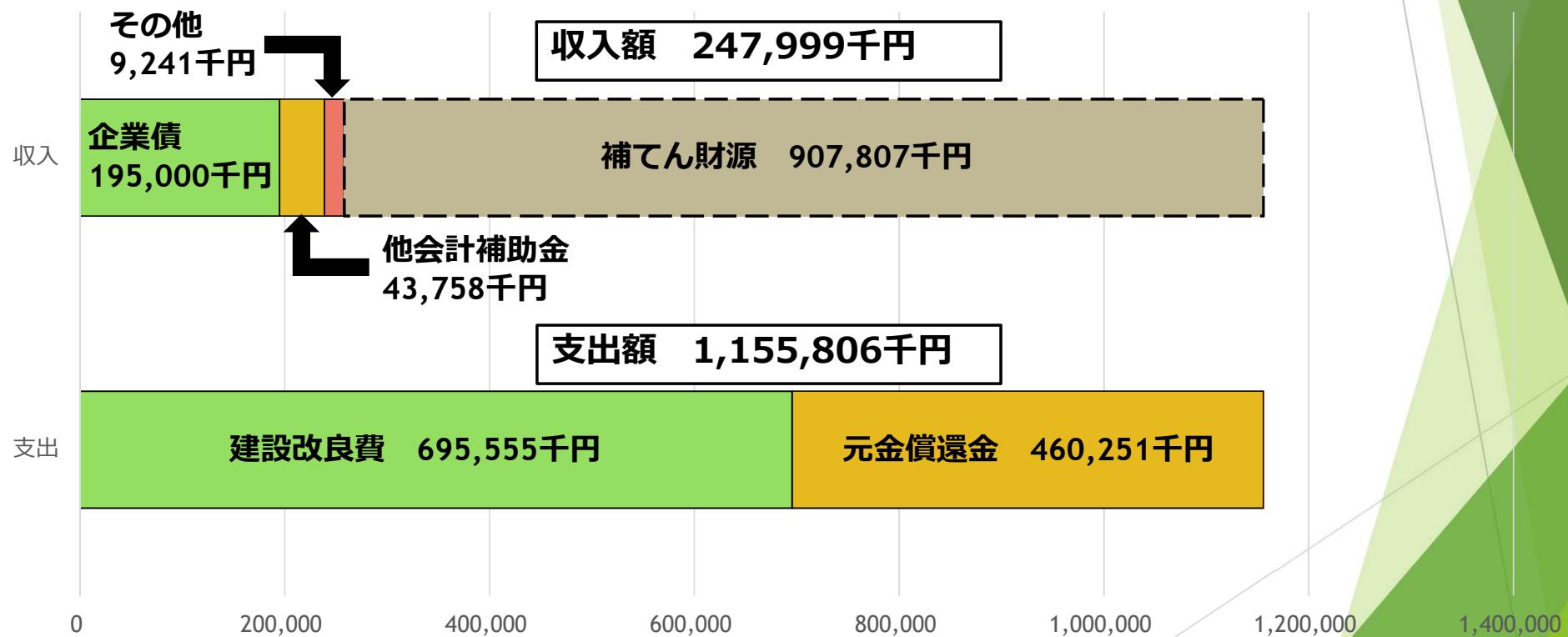


資本的収支【4条：建設部門の結果】

水道管を布設するための負担金や企業債（借入金）

水道管布設・施設更新や企業債償還などの経費

（税込み）



令和4年度の主な事業内容

▶ 水道基本料金の無料化を実施

- 物価高騰や新型コロナウイルス感染症への対策として、令和4年8月検針分から令和5年1月検針分（6か月分）の基本料金の無料化を実施しました。
- 水道基本料金無料化の実施により、営業利益がマイナスとなっておりますが、営業外収益の一般会計繰入金により減収分を補てんしております。

▶ 災害用品（給水袋、簡易水槽）の備蓄

- 給水袋（6リットル）を1,000枚を購入しました。
- 折り畳み式簡易水槽（避難所等に設置可能な500又は1,000リットルの給水タンク）を購入し、災害時には常時給水できる体制を整えるように計画的に備蓄していきます。

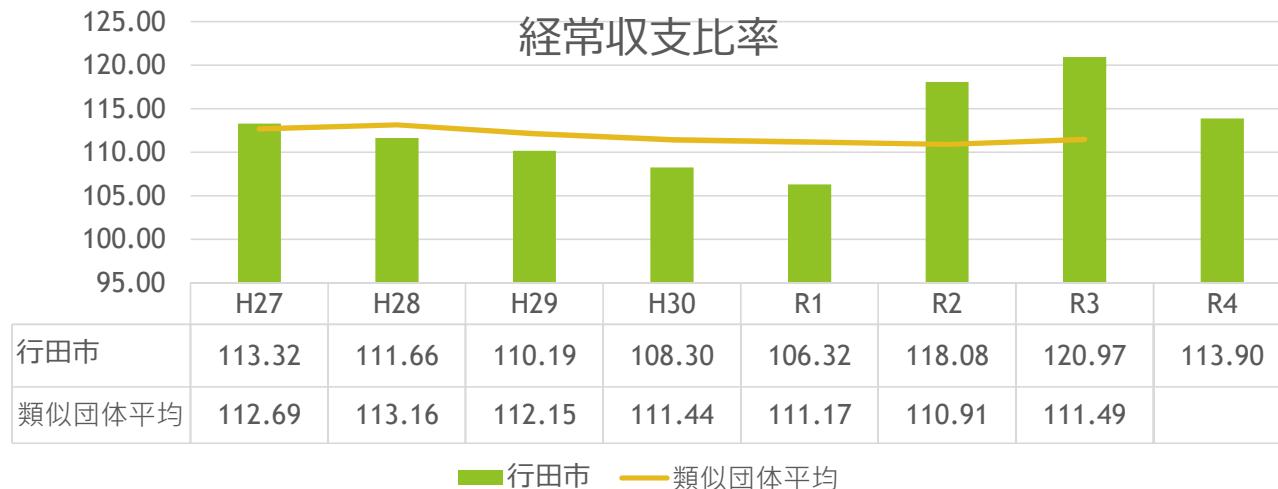
▶ 給水車の更新

- 購入から20年が経過し老朽化していた給水車を更新しました。
- タンク容量が1,000リットルから1,800リットルに増加し、応急給水能力が大幅に強化されました。

▶ 照明のLED化

- 施設の照明のLED化を一部実施しました。

経営分析



指標の意味

収益（3条）で維持費等がどの程度賄えているかを表す指標。100%以上が良いとされている。

行田市の状況

電気料の値上げにより減少し、約114%となつた。

指標の意味

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標。減価償却が進むと耐用年数に近い（老朽化した）資産が多い。

行田市の状況

約54%の資産の減価償却が進んでいる。